学苑・人間社会学部紀要　No. 844　10～24（2011・2）

〔論　　文〕

トルコ諸都市の
センター領域と市場空間に関する基礎的考察

鶴　田　佳　子

A Study of the Configuration of Urban Centers and Commercial Areas in Turkey

Yoshiko TSURUTA

The purpose of this study is to investigate the spatial characteristics of Turkish cities. On the basis of spatial examination of commercial areas in 18 cities of the Western Anatolian region, we drew the urban plans, and the plans of the central commercial areas (Çarşı in Turkish), of 18 cities (İstanbul, Bursa, Balıkesir, Taraklı, Göynük, Mudurnu, Bolu, Safranbolu, Kastamonu, Nallıhan, Beypazarı, Konya, Bergama, Kütahya, Afyonkarahisar, Uşak, Tire, İzmir).

We analyzed the ways in which urban areas are configured, taking into account Çarşı, major urban facilities, main roads, and new town center areas. The following conclusions can be drawn from our observation and analysis. Çarşı remain the centers of urban areas, and as such have historically been important in how urban areas were configured. Our study confirms that they continue to play a great role today. Çarşı provide space and streets rich with traditional uses of space and also functional modern design. New and old elements are mixed in Çarşı, and Çarşı boundaries can be vague because as Çarşı develop they spread into the new town areas.

Key words: *Turkey*（*トルコ*）, *urban space*（*都市空間*）, *commercial area*（*商業空間*）, *space configuration*（*空間構成*）, *utilization of space*（*空間活用*）

1. はじめに

トルコ諸都市において都市空間の特徴をみる上で，市場空間は機能及び空間形態ともに重要である。市場空間はトルコ語でチャルシュ[1]と呼ばれる商店街とパザル[2]と呼ばれる露天市の2つの空間形態がある。チャルシュは商業機能がメインとなるが，単に販売店舗だけでなく，工房をはじめとする生産の場や事務所も点在している。また，行政施設やジャミィ[3]，ハマム[4]，キュリイェ[5]など公共性の高い施設も立地し，商業以外の機能も兼ね備えた多機能空間となっている。パザルは週に1，2度，定期的に開催される露天市が主となる仮設タイプと常設タイプの市場施設がある。チャルシュに隣接した広場や街路で開催される場合と市街地に複数点在する場合があり，機能面では商業機能だけでなく，地域の交流の場としての役割が大きく，都市に活気を与える空間となっている。2007年からチャルシュとパザル双方を対象とした現地調査を実施し，それぞれの空間の特質を確認してきた[6]。チャルシュは都市のセンター機能を担い，パザルはセンターに位置するものとそうでないものとがあるが，日常生活に必要な商業空間であり，定期的に賑わいの場を提供する要素となっている。

また，都市センターの観点から市場空間について，アナトリア西北部の旧交易都市のうち8都市を対象に考察した結果[7]，8都市ともに都市センターは多様な要素を含む多機能空間であること，伝統的な部分と新たに開発，整備された部分の混在がみられることが共通点として挙がった[8]。チャルシュは過去においてセンター機能を担ってきた重要な空間であり，現在も多様な都市機能を継続しているものの，

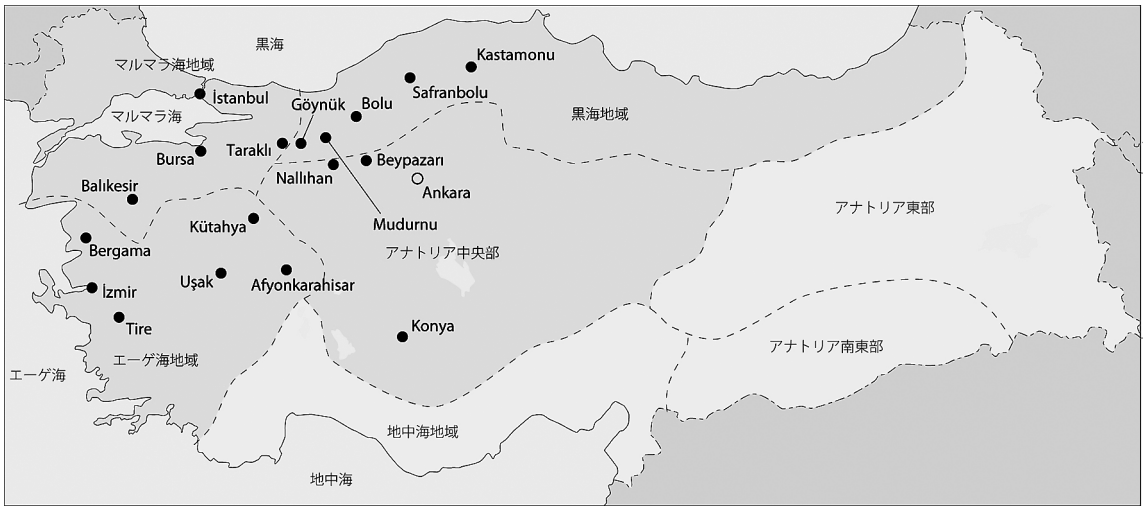


図 1. トルコ調査対象 18 都市位置図（●が調査対象都市）

表 1. センター領域の構成一覧

type	都市名	都市部の人口*	地 域	新市街	幹線	伝統的商業施設					複合ビル	バザル		行政施設	宗教施設	集会・交通	
						ベデステン	アラスタ	ハン	店舗群	工房		中心	周縁			空間	立地などの特徴
1	Safranbolu	38,334	黒海地域	分離	横	○	◎	◎	◎	◎		A	A	○	◎	広場	チャルシュ入口・ジャミィ前
2	Taraklı	2,947	マルマラ海地域	拡張	中央			○	●	●		A,K		●	◎	街路	都市軸
2	Göynük	4,269	黒海地域	拡張	横				●	●	●	A,K		●	◎	広場	ジャミィ前・チャルシュ入口
2	Mudurnu	4,856	黒海地域	拡張	中央				●	●		A,K		●	◎	街路	都市軸
2	Tire	48,565	エーゲ海地域	拡張	中央	○		●	◎	●	●	A		◎	●	街路	都市軸
2	Kastamonu	80,582	黒海地域	拡張	中央	◎		◎	◎	●	●	A,K	A	◎	◎	広場	ジャミィ前・チャルシュ入口
2	Uşak	172,709	エーゲ海地域	拡張	中央	◎	◎	◎	◎	●	●	K	A,K	◎	◎	広場	市役所前・チャルシュ入口
3	Nallıhan	12,895	アナトリア中央部	隣接	横			●	●	●	●	A		◎	◎	広場	市役所前
3	Beypazarı	34,496	アナトリア中央部	隣接	横	○		●	●	●	●	A		◎	●	広場	観光市・チャルシュ横
3	Bergama	58,212	エーゲ海地域	隣接	横	●	◎	●	●	●	●	A	K	●	●	街路	都市軸・チャルシュ横
3	Bolu	107,857	黒海地域	隣接	横			◎	●	●	●	A,K	A	◎	◎	広場	市役所前・チャルシュ入口
3	Afyonkarahisar	159,967	エーゲ海地域	隣接	横	◎		●	◎	●	●	A	A	◎	◎	広場	市役所前・公園
3	Kütahya	212,934	エーゲ海地域	隣接	横	◎		◎	◎	●	●	A,K	A,K	●	◎	街路	歩行者天国・チャルシュ入口
4	Konya	1,412,343	アナトリア中央部	融合	中央			◎	◎	●	●	H	K	◎	◎	街路	都市軸・公園
4	Bursa	1,979,999	マルマラ海地域	融合	中央	◎		◎	◎	●	●	A,H	A,K	◎	◎	広場	チャルシュ入口・ジャミィ前
4	İzmir	3,175,133	エーゲ海地域	融合	中央			◎	◎	●	●	A,H	A	◎	◎	広場・街路	チャルシュ入口・港前・市役所前
4	İstanbul	11,174,257	マルマラ海地域	融合	中央	◎	◎	◎	◎	●	●	A	A	●	◎	広場・街路	ジャミィ周辺広場・公園・港前・歩行者天国
5	Balıkesir	241,404	マルマラ海地域	分散	中央	●			●	●	●	H	K	●	●	街路	スタジアム前，公園

＊都市部の人口は 2007 年
（各都市の行政機関の公表した資料に基づく。）

○ 廃墟もしくは部分的な残り方をしている
● 該当する施設がある
◎ 該当する施設が活用されている

A 街路など屋外にテントをはるタイプ
K 屋根付きの広い空間に販売台が並ぶタイプ
H ホール型の常設市場施設

現状としてのセンター領域を改めて捉えようとすると，チャルシュだけでなく，隣接して発展する新市街も含めて領域をみる必要性が出てくる。本論文では，現地調査を実施してきた 18 全都市を対象に都市における市場空間の位置づけとセンター領域の定義づけを行う。対象とする 18 都市は，マルマラ海地域，エーゲ海地域，中央アナトリア地域，黒海地域の調査実施都市[9]（図 1 参照），イスタンブル，ブルサ，ベルガマ，バルケシル，ギョイヌック，タラクル，ムドゥルヌ，ボル，ナルハン，ベイパザル，サフランボル，カスタモヌ，アフヨンカラヒサール，キュタフヤ，ウシャク，イズミール，ティレ，コンヤである。いずれも交易で栄えてきた都市であり，規模の大小はあるものの伝統的な市場空間が継続して活用されている事例である。

2. センター領域の概念と都市構成

都市構成の観点からセンター領域について考えるため，18 都市に関して，人口，地域，空間構成について整理したものを表 1 に示す。都市毎に確認していった項目は以下の通りである。「都市部の人口」は 2007 年の資料を都市規模の目安として掲載する。「新市街」は，新市街とチャルシュとの関係性及び中心性という視点から，分離，拡張，隣接，融合，

分散の5タイプに分類する。市場空間の中でもチャルシュは都市のセンターに位置するため着目している。分離は新市街がチャルシュとは切り離され，独立して存在している場合，拡張はチャルシュの拡張部分が新市街である場合を示す。隣接はチャルシュに隣接する形で新市街が整備されている場合で，拡張と似ているが，チャルシュと新市街の境界がわかりやすいものを示す。融合はチャルシュの拡張部分に新市街があり，さらに別な核となる都市施設を中心とするエリアが複数存在する場合で，チャルシュを中心としながら，他のエリアと融合してセンター領域を形成している。分散はチャルシュ以外の都市施設が核となるエリアが同等に複数存在する場合である。チャルシュが他のエリアと同じように一つの核として機能し，センター領域の一部となっている。

「伝統的商業施設」「複合ビル」「パザル」「行政施設」「宗教施設」は，主要な都市施設としてチャルシュ内外での施設の有無と活用の状況をあわせて記載する。「集会・交通」は，集会や祭り，イベントを開催する場所や交通ターミナルの役割を担う場所など必然的に多くの人が集まる場所がどこかを記載する。

1)　センター領域の概念

都市のセンターは主要な都市施設が位置し，行政，商業，宗教，文化，交通など多様な都市機能を兼ね備えている。ヨーロッパの都市であれば，中心に広場があり，市庁舎や教会が広場に面して建っていることが多い。都市により広場の形態や面する都市施設は都市の建設や発展経緯とも関わり異なるものではあるが，いずれも広場がその都市を代表する空間として重要な役割を担っている。多機能且つその都市を代表する空間という点で，トルコの場合はチャルシュが該当する。チャルシュは歴史的に都市のセンター機能を担ってきた空間ではあるが，現代の都市をみると，チャルシュだけでなく，新市街も多様な機能を持ち合わせている場合がある。センター領域の空間形態は伝統的な空間を維持する部分と新たに開発する部分の両方が存在し，都市の発展とともに変化し続けている。チャルシュもセンター領域も境界が曖昧であるが，いずれも多くの人が利用する公共性の高い空間であり，利用する際の目的が祭りや集会などの同一目的から一人ひとり個人で異なる目的をもつ場合まで，不特定多数の人が多様な目的で利用できる空間である。

2)　都市構成（表2. 都市構成要素写真一覧参照。以下，該当箇所に写真No.を記載する。）

①　都市施設

伝統的商業施設としてベデステン[10]，アラスタ[11]，ハン[12]，店舗群，工房がある。チャルシュの主たる構成要素であり，商品の売買だけでなく，生産の場としても伝統的に機能してきた。ベデステンは石造の堅固な造りで，貴金属など高価な商品を扱う商業施設である。小ドームが連なりホール状の大空間を形成し，その中に個割にした店舗が並ぶ形式（写真01）をとっているものが多い。チャルシュの中でも核となる施設であるため，イスタンブルやブルサのようにベデステン周辺の街路にも店舗が並び屋根が付き，グランド・バザールと呼ばれる一大商業エリアへと発展している事例（写真02）もある。アラスタは通りの両側に店舗が並ぶ形式のものを指し，イスタンブルのエジプト市場（写真03）のように屋根が付き，一体化した施設として建設されているものもあれば，施設化しているものの街路部分に屋根のないサフランボルのイェメニジ・アラスタ（写真04）のような形態もある。また，ベルガマ（写真05）の場合は，一体化した施設ではなく，通りの両側に連続して店舗が並んでいるのみであるが，アラスタと呼ばれている。ハンはロの字型に中庭を囲み，中庭に面して1，2階共に回廊をもち，小部屋が並ぶ建築形態（写真06）である。かつては交易商人たちの宿泊施設やオフィスとして使用されていたが，現在は店舗（写真07）や倉庫，工房の他，設備等を大幅に改装し，現代のホテルとして再生しているもの（写真08）もある。ベデステン，アラスタ，ハンの3施設は都市の歴史を伝える重要な施設であり，修復されながら活用されている。店舗群は，伝統的には木造1，2階建の間口の狭い店舗が連なるもの（写真09）となっている。2階建の場合，1階が店舗で2階が倉庫，あるいは作業場として使用されている。現在は木造ばかりでなく，コンクリート造の店舗も

表 2-1. 都市構成要素写真一覧

写真事例								
No.	構成要素	特徴	01	ベデステン	小ドームによるホール型の空間に個割にした店舗が並ぶ。	02	ベデステン	ベデステンを核にして複数の街路の複合体グランド・バザールになっている。
都市名			Bursa			İstanbul		
03	アラスタ	エジプト市場。屋根付きの通りの両側に店舗が連なる。	04	アラスタ	街路に屋根はないが，一体化した施設になっている。	05	アラスタ	複数の通りをあわせてアラスタと呼んでいる。
İstanbul			Safranbolu			Bergama		
06	ハン	タシュハンの中庭。1，2階に店舗，オフィスが並ぶ。	07	ハン	シルク商品の店舗が並ぶコザ・ハン（繭のハンの意味）2階の回廊。	08	ハン	小部屋が連なる構成は維持しながら設備を最新のものにしホテルとして再生。
Bolu			Bursa			Kastamonu		
09	店舗群	1，2階建の店舗が連なる。2階は倉庫として使用しているものが多い。	10	工房	革靴の工房。店舗の一角で作業をしている。	11	工房	服の仕立て屋。ハンの2階に入っている。
Göynük			Safranbolu			Kastamonu		
12	工房	布団の仕立て屋。店頭には材料の綿が置かれている。	13	工房	家具や戸棚から小物まで幅広く木工芸を扱う。	14	工房	伝統民家の鍵など金具から農具まで扱う。
Beypazarı			Taraklı			Safranbolu		

表 2-2. 都市構成要素写真一覧

15	複合ビル	大きな吹き抜けに面して店舗が並び複合商業施設になっている。
Balıkesir		

16	パザル	2つの広場で立つ月曜市。写真は衣料品エリア。
Göynük		

17	パザル	大屋根の下に店を展開する。木曜市の野菜エリア。
Kütahya		

18	パザル	大屋根の下で水曜市が開催されるが一部常設店舗もある。
Uşak		

19	パザル	村の生産物販売専用のエリア。
Mudurnu		

20	パザル	月曜市は，周辺の村からも多くの人が訪れ交流空間となる。
Göynük		

21	パザル	街全体で火曜市が開催され，チャルシュの店舗も活気を増す。
Tire		

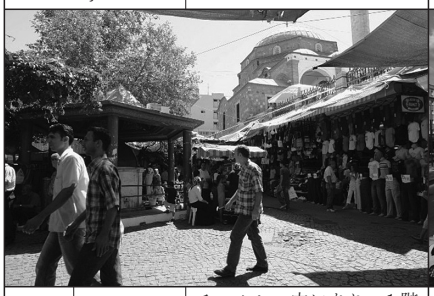
22	パザル	駐車場に露店が並ぶ日曜市。パラソルで埋め尽くされている。
İzmir		

23	パザル	常設の市場施設。野菜，肉などの生鮮食品の市場で，毎日営業。
Konya		

24	行政施設	多くの人で賑わう市役所前広場。市役所は写真左。
Uşak		

25	行政施設	歴史建造物を市役所として活用するものもある。
Nallıhan		

26	宗教施設	街の中心に位置するウル・ジャミィ。
Bursa		



27	宗教施設	チャルシュ内にあり，1階が店舗，2階のテラスからジャミィへ入る。
İzmir		

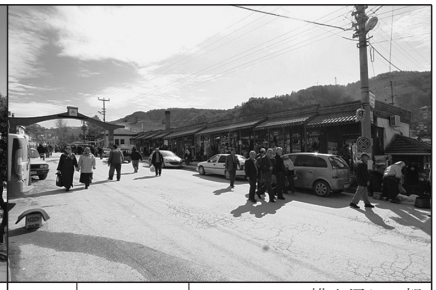
28	交通施設	船からバスへの中継地として賑わうエミノニュの港。
İstanbul		

29	文化施設	かつての神学校を修復し，文化センターとして活用。
Bursa		

表 2-3. 都市構成要素写真一覧

30	幹線	他都市へとつながる幹線が都市のセンター軸となっている。
Kastamonu		

31	幹線	センター領域内のメインストリート。
Konya		



32	幹線	チャルシュの横を通り，都市のセンター軸となっている。
Mudurnu		

33	集会・交通	タクシム広場。新市街の中心として多様に活用されている。
İstanbul		

34	集会・交通	歴史地区（写真下）と新市街（写真上）を結ぶ広場（写真中央）に木々が並ぶ。
Afyonkarahisar		

35	集会・交通	街のシンボルの時計塔がある広場。市役所が面するチャルシュの入口。
İzmir		

36	集会・交通	チャルシュの入口の広場。噴水と木々が憩いの空間を演出している。
Bursa		

37	集会・交通	チャルシュの入口の広場。観光バスがここまで入ってくる。
Safranbolu		

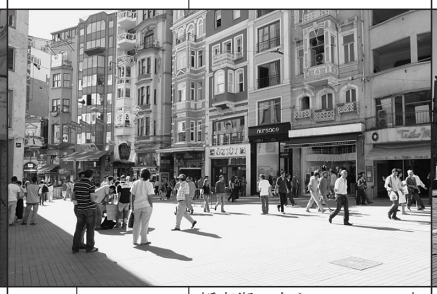
38	集会・交通	チャルシュの中心の広場。キュリイェ，ハンに囲まれている。
Kastamonu		

39	集会・交通	市役所，公園，博物館に囲まれた新市街中心の広場。式典が行われる。
Afyonkarahisar		

40	集会・交通	式典が行われる共和国広場。写真は勝利の日の式典。
İzmir		

41	集会・交通	断食明けの食事を提供するテントがエジプト市場横の広場に設置されている。
İstanbul		

42	集会・交通	断食明けの食事後に夜の散歩を楽しむ場となっている。露店が並ぶ。
İstanbul		



43	集会・交通	新市街の中心，タクシム広場から延びる歩行者天国。イスティクラル通り。
İstanbul		

44	集会・交通	港前広場。歩行者空間として整備された。
İzmir		

多い。工房は職人の作業兼販売の場として，伝統技術が継承されており，革靴（写真 10），服や布団の仕立て（写真 11, 12），銀細工，木工芸（写真 13），鉄（写真 14）や銅，アルミの加工など，各地で細々とであるが残っている。

「複合ビル」は伝統的商業施設に対して，現代的な施設である。ビルの複数階に店舗が並び，一つの複合商業施設になっているもの（写真 15）を指す。ショッピングセンターもこれにあたる。チャルシュの中には同業種の問屋が店を連ねる施設もある。

「パザル」はセンター領域内に立地するものと周縁部の住宅街に位置するものがある。小規模な都市の場合，チャルシュ内，もしくは隣接する形で広場（写真 16）や街路，あるいは屋根付きの専用エリア（写真 17, 18）で市が立つ。市の内容は生鮮食料品から衣料品，日用雑貨など幅広く，周辺の村から生産物を持参した人々が販売するエリア（写真 19）もほとんどの都市で確保されている。パザルは都市の住民だけでなく，周辺の村までが一体となった交流拠点として機能している（写真 20）。また，ティレ（写真 21）のように火曜日になると街全体がパザルの会場となり，広場や街路の露店だけでなく，チャルシュの店舗も商品を通りに張り出して商売をするため，週に一度，街全体が活気づく。都市の規模が大きくなると，中心部だけでなく周縁部の街路や広場，駐車場（写真 22）などを利用して，複数のパザルが曜日を変えて開催される。また，大都市では中心部に常設の市場施設（写真 23）を設ける場合も多い。

「行政施設」は，区役所，市役所，県庁舎などをさし，都市の規模が小さければ，チャルシュ内に立地するが，規模が大きくなると新市街に立地する場合がほとんどである。施設前に広場を設けている場合も多く，式典での利用のほか，日常から多くの人が訪れる場となっている（写真 24）。サフランボルのようにチャルシュ内に旧市庁舎の建物だけが残るものやブルサのように部分的な部署のみチャルシュ内の施設を設け，メインは新市街にある場合もみられる。ブルサのチャルシュ内に位置する分庁舎やナルハンの市役所（写真 25）は歴史建造物を活用している。

「宗教施設」は，宗教関連施設を指す。イスラーム教の礼拝の場であるジャミィを主たる対象としているが，ジャミィ単体の場合だけでなく神学校やハマムなども併せて都市複合施設として建設されたキュリイェもあり，単なる祈りの場ではなく人々の交流の場としての役割が大きい。ジャミィをはじめとするこれらの施設は都市内に複数点在し，ブルサやキュタフヤ，ウシャクのようにウル・ジャミィ（大モスクの意味。写真 26）と呼ばれ，都市を代表するジャミィもあるが，金曜昼，一週間の中でもっとも多くの人がジャミィで祈りを捧げる時間帯に観察すると，どのジャミィも中庭や外の街路などの屋外空間まで人で溢れている。ウル・ジャミイだけが中心的な役割を果たしているのではなく，小さなものも含めてジャミィは人を集める施設となっている。イズミールのチャルシュでは，店舗の並ぶ街路から階段を上がり，店舗の屋上にあたる 2 階部分に入口をもつジャミィがある（写真 27）。つまり，1 階が店舗で 2 階がジャミィという立体的な空間の使い方である。高密度に店舗が立ち並ぶチャルシュでスペースを確保するのは困難であるためか，同様な配置のジャミィは数カ所，イズミールのチャルシュ内に存在している。

商業施設，行政施設，宗教施設の他にも交通施設，文化施設，交流施設などもセンター領域内にみられる。交通施設はバスターミナルや駅，港（写真 28）といった施設でセンター領域以外にも都市の玄関として周縁部に位置する場合も多い。文化施設には歴史建造物を活用して博物館にしているもの（写真 29）もある。交流施設は，宗教関連施設に入れたハマムや商業施設の中の一つの店であるチャイハネ[13]が日常の中で機能している。

② 幹線

都市構成の主軸となる幹線として，他都市からの主たるアクセスとなる幹線（写真 30）と都市内移動のための幹線（写真 31）の双方を対象とする。都市構成をみたときに幹線が主軸となり両側にセンター領域が展開する場合を表中には「中央」と表記し，幹線が貫通する形ではなく接する場合に「横」と表記した。タラクル，ムドゥルヌ（写真 32），ナルハ

ンのような規模の小さな都市は，都市センターを貫通する幹線に面しても店舗が並び，一本奥まった位置にあるチャルシュと共に商業エリアを形成している。チャルシュと新市街を融合させる役目を果たしている幹線もある。

③集会，交通機能

集会や祭り，イベントを開催する場所や交通ターミナルの役割を担う場所など必然的に多くの人が集まる場所をみると，集まる目的と関連した施設があるなどの立地条件が重要であり，ある程度の広さも必要である。そのため具体的な該当空間をみると，広場と街路が挙げられる。ヨーロッパのような広場を核とする都市構成ではないものの，センター領域の中で広場空間は活用されている（写真 33）。ここで着目した空間は新市街と伝統的なチャルシュを結びつける役目を果たしているものが多い。広場や隣接する公園など，空間の広がりが新旧を繋ぐ緩衝空間（写真 34）となっている。特にチャルシュ入口の広場（写真 35〜38）は，伝統的なチャルシュの一部，もしくは隣接する形で新市街の幹線とともに現代の都市計画で整備され，空間の広がりや植栽等によって新旧の融合する場にしつらえられている。また，新市街の中心的な役割を果たしている広場には市役所前の空間が整備されている事例が多く，式典等のイベント開催（写真 39）としても活用されている。市役所や県庁舎などの行政施設以外に，記念碑や像の立つ記念広場，歴史建造物が周囲にあり，日常においても多くの人が訪れる広場でもイベントが開催されている。イベントは，勝利の日の式典（写真 40）のように国を挙げての行事や宗教的な行事，伝統工芸品の展示会など文化的なものまで幅広い。

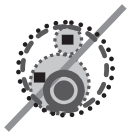
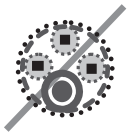
宗教的な行事としては，約一カ月に及ぶ断食月の夕方，断食明け関連のイベントで多くの人を集める。毎夕方，イフタール[14]と呼ばれる断食明けの時間になると，通常，自宅で断食明けの食事をとるが，時にはレストランでイフタール特別メニューを楽しむため，断食明けの時間が近づくとレストランの前には行列ができる。食事を提供する巨大テントを広場に設置して（写真 41），無償で食事を提供する役所や団体もある。イスタンブルの場合は，食事を提供するテントの他に，歴史地区の中心地スルタン・アフメットのヒポドロームと呼ばれる公園に屋台が並び（写真 42），毎夜，縁日が開催されているような賑わいで夜遅くまで多くの人が押し寄せる。ヒポドロームはかつての競技場であり，オベリスクなど歴史的見所が多く，ブルー・モスクとして知られるスルタン・アフメット・ジャミィに隣接していることもあり，昼間は観光客が多く訪れる場所である。

センター領域にみられる広場や街路は，イベント等の非日常的な活用だけでなく，日常においても多くの人が利用しやすいように歩行者専用空間としての整備（写真 43, 44）も行われている。

3. センター領域にみる諸都市の特質

表 1 の「新市街」の項目において新市街とチャルシュの関連性及び中心性の視点から都市の構成を確認した結果，特徴的な 5 タイプを都市名とともに表 3 に示し，18 事例別の都市図と概要を表 4 に示した。

表 3. タイプ別モデル図一覧

タイプ 01	タイプ 02	タイプ 03	タイプ 04	タイプ 05
分離型	拡張型	隣接型	融合型	分散型
				
Safranbolu	Taraklı Göynük Mudurnu Tire Kastamonu Uşak	Nallıhan Beypazarı Bergama Bolu Afyonkarahisar Kütahya	Konya Bursa İzmir İstanbul	Balıkesir

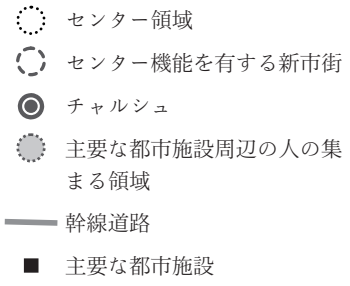
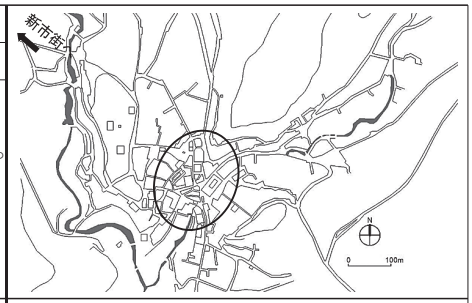


表 4-1. 18 事例都市概要及び都市図一覧

（都市図中は ━━ チャルシュ， ┅┅ は新市街， ····· はセンター領域を示す。）

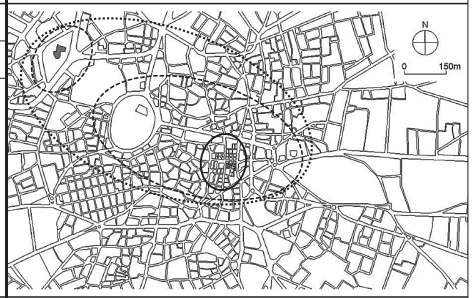
都市名: Safranbolu	**タイプ 01: 分離型**
黒海地域	人口　38,334 人

街道沿いの宿場町として繁栄した都市で，現在は，谷間の旧市街チャルシュ，高台にある新市街，新市街の奥のかつて夏の居住地であったバーラル地区の 3 地区から構成されている。旧市街全体が世界遺産に指定されている。チャルシュにはジンジ・ハン（17 世紀建造）やアラスタ，ハマムなどが保存されている。ハンはホテルとして，アラスタは土産物街として修復後，活用されている。毎週土曜日にハン裏の広場で食料品や衣料品の市が開かれる。



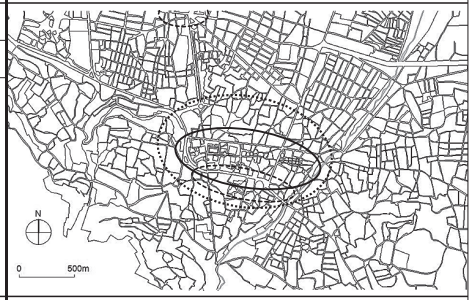
都市名: Konya	**タイプ 04: 融合型**
アナトリア中央部	人口　1,412,343 人

紀元前から長い歴史を有し，セルチュク時代には首都として栄えてきた。中央アナトリアの交易の拠点としても重要な役割を果たし，周辺にはかつての隊商宿キャラバンサライが残っている。また，メブラーナゆかりの地として，現在はメブラーナ博物館が公開されている。アラエッディンの丘とメブラーナ博物館を結ぶメブラーナ通りを軸に中心部が広がる。丘にはセルチュク時代のアラエッディン・モスクがある。チャルシュはメブラーナ通りの南側にある。



都市名: Bursa	**タイプ 04: 融合型**
マルマラ海地域	人口　1,979,999 人

1326 年にオスマン帝国最初の首都となり，初代スルタンのオスマン 1 世や 2 代目オルハンの墓，モスクやハマム，神学校など数多くの歴史建造物が修復・活用されている。古くから商業面でも栄え，オスマン帝国時代に城塞東側の低い位置にチャルシュを建設。絹織物産業が盛んとなる。ジャミィ，ハン，ハマムが複数立ち並び，これらの施設を繋ぐように商店街や職人街があり，チャルシュを形成している。ウル・ジャミィ（1400 年建造）はチャルシュ入口に建つ。

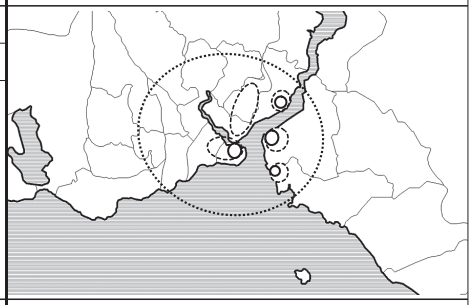


都市名: İzmir	**タイプ 04: 融合型**
エーゲ海地域	人口　3,175,133 人

エーゲ海沿岸，イズミール県の県都。トルコで 3 番目に大きな都市であり，国際的な港町である。紀元前からの長い歴史を有し，17 世紀には東地中海の重要な港としてフランスやヴェネチアからも船が出入りし，商業都市としてさらなる発展を遂げている。港に面するコナック広場の東側にチャルシュがある。チャルシュはケメルアルトと呼ばれ，半円形にカーブしながら延びるアナファルタラル通りを中心に広がっている。

都市名: İstanbul	**タイプ 04: 融合型**
マルマラ海地域	人口　11,174,257 人

町はマルマラ海と黒海を繋ぐボスポラス海峡を挟んでヨーロッパとアジアにまたがっている。交易の要衝であり，グランド・バザール，エジプト市場を中心とする大規模なチャルシュエリアがある。イスタンブルは大都市であり，年々人口が増加し，郊外への都市化も進んでいる。他の都市のように中心部にチャルシュを 1 つもつというだけでなく，それぞれの区や地区の中心地にも規模の大小はあるもののチャルシュに値するエリアをもっている。



都市名: Balıkesir	**タイプ 05: 分散型**
マルマラ海地域	人口　241,404 人

バルケシル県の県都。中心部にはユルドゥルム・ジャミィやザウノス・パシャ・ジャミィ（15 世紀建造）の他，19 世紀建造のベデステン，巨大な螺旋状のフロア構成のショッピングセンター，大空間の中に常設の店舗が並ぶ形式の生鮮食料品市場といった商業施設がある。チャルシュエリアは広域にわたり，歴史建造物が点在するものの，ほとんどが近代的なビルとなっており，1 階部分だけでなく複数階が店舗やオフィスとして機能している。

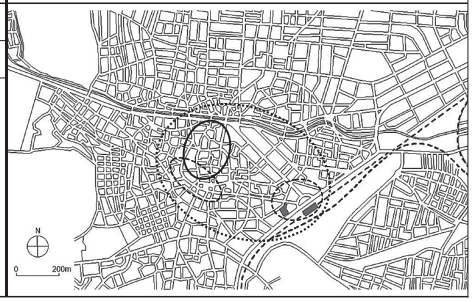


表 4-2. 18 事例都市概要及び都市図一覧

（都市図中は ━━ チャルシュ，- - - は新市街，…… はセンター領域を示す。）

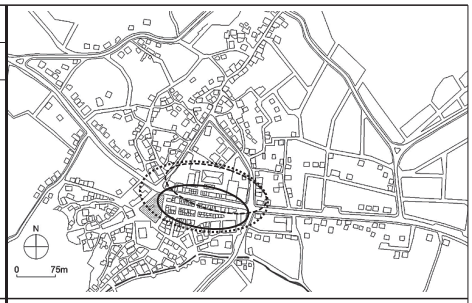
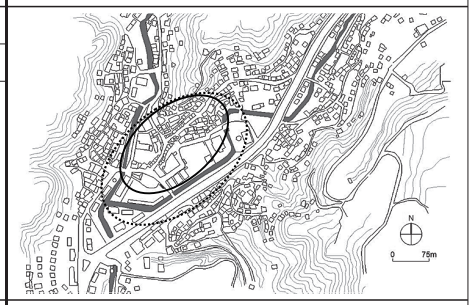
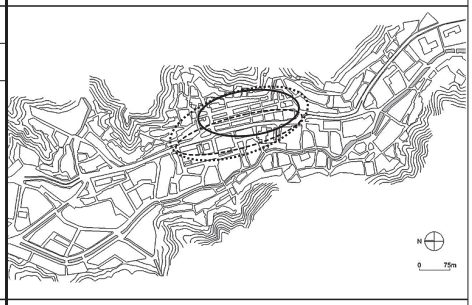
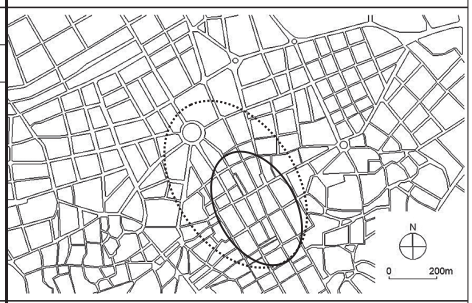
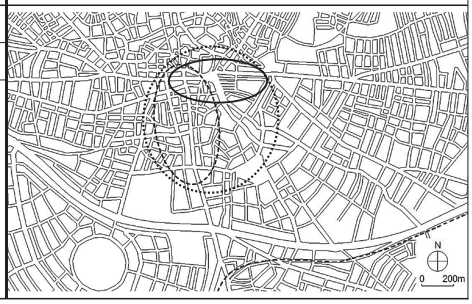
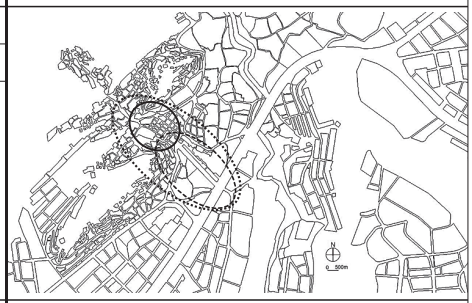
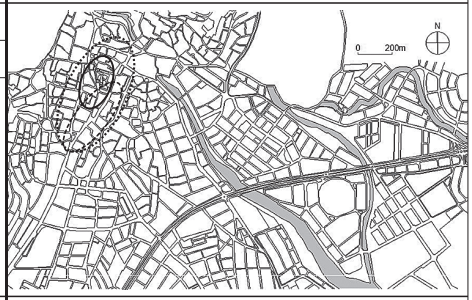
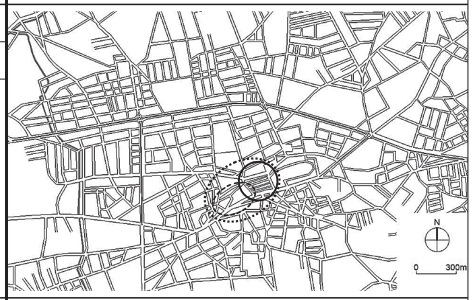
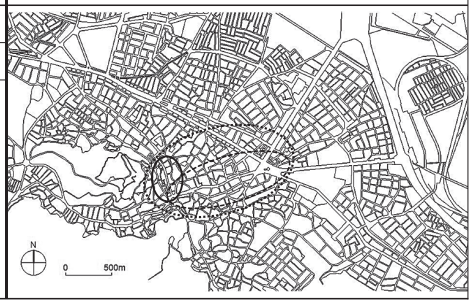
都市名: Taraklı	**タイプ 02: 拡張型**
マルマラ海地域	人口　2,947 人
ビザンツ時代は小さな城塞都市，オスマン時代は街道沿いの宿場町としての役割を担ってきた小さな町である。伝統的な木造民家の修復に力を入れている。市役所の近くに木工のアトリエがあり，伝統的な家具の修復作業がなされている。アンカラ-イスタンブル通りを軸に中心部が構成されている。通りと通りの南側のエリアがチャルシュ，通りの北側に市役所と土曜開催のバザルエリアがある。チャルシュの南西部の高台に城塞跡がある。	
都市名: Göynük	**タイプ 02: 拡張型**
黒海地域	人口　4,269 人
緑豊かな山に囲まれ，V 字状に川が流れる。その両側の斜面に伝統的な木造住宅群が建ち並んでいる。この町はファーティヒ・スルタン・メフメットの師であるアクシャムセッティン・メフメットの出身地としても知られている。墓廟（1464 年造）があり，毎年 5 月に記念祭が開催される。チャルシュは旧交易ルート沿いに形成されている。毎週月曜に，市役所横の広場，ハマム前広場及び幹線道路沿いの歩道で定期市が開催され，周辺の村々から人が集まる。	
都市名: Mudurnu	**タイプ 02: 拡張型**
黒海地域	人口　4,856 人
歴史は古代に遡ることができ，ビザンツ時代には丘の上に城塞が築かれた町である。アンカラからイスタンブルへ山道を抜ける旧交易ルート沿いの拠点であり，チャルシュを中心に，山々に囲まれた谷間に町が広がる。チャルシュに並ぶ店舗群はほとんどが 2 階建の小規模店舗となっている。靴修理，金物や馬具などの工房もあり，チャルシュは今後保存される方向である。広場を中心に土曜市が立つ。村の生産物のみを扱うエリアも設けられている。	
都市名: Tire	**タイプ 02: 拡張型**
エーゲ海地域	人口　48,565 人
県都イズミールからは約 100 km 内陸に位置し，紀元前からの長い歴史を有する。チャルシュは町の中心部に面的な広がりをみせ，メインストリートとなる大通りの他，大通りに並行する複数の街路から構成されている。幅の狭い街路は歩行者専用のものも多く，街路には商品が張り出している。大通りから幅の狭い街路に至るまで，火曜日は町全体が露店で埋め尽くされ，賑やかな市場空間へと変貌する。	
都市名: Kastamonu	**タイプ 02: 拡張型**
黒海地域	人口　80,582 人
カスタモヌは黒海と内陸を結ぶ街道の拠点として発展してきた。市の南東部の岩山には 12 世紀に起源をもつ城塞が修復されている。チャルシュ内も多くの歴史建造物が修復保存され，商業施設としてはベデステン（15 世紀建造）やハンがいまだ活用されている。ホテルとして再利用されているハンもある。チャルシュの一画に立体化した市場施設があり，水曜と土曜に食材を中心に市が開催される。	
都市名: Uşak	**タイプ 02: 拡張型**
エーゲ海地域	人口　172,709 人
エーゲ海地域と中央アナトリア地域を結ぶ街道沿いに位置する。1953 年からウシャク県の県都として発展。中心部にはウル・ジャミィやブルマ・ジャミィといった宗教施設の他，歴史的な商業施設を中心とするチャルシュが広がっている。ベデステン（1901-1904 建造）はイタリア人建築家によって建設されたもので，1987 年に修復。パシャ・ハン（1898 建造）はフランス人建築家によって建設されたもので，20 世紀末に修復後はホテルとして機能している。	

表 4-3. 18 事例都市概要及び都市図一覧

（都市図中は ━━ チャルシュ，- - - は新市街，┈┈ はセンター領域を示す。）

都市名: Nallıhan	**タイプ 03: 隣接型**
アナトリア中央部	人口　12,895 人
アンカラ県西部，ナルハン郡の中心都市。ヒッタイト時代から長い歴史があり，ローマ時代は商業及び軍事上の街道の拠点として繁栄してきたようである。現在は南北に貫く国道を中心に町は広がり，チャルシュは国道の東側に位置する。チャルシュには 1595 年建造のコジャハンがあり，2008 年調査時，修復工事が進められており，いずれ観光に活用される様子であった。月曜の露天市は市役所前の通りから広場，川沿いの通りにかけて開催される。	
都市名: Beypazarı	**タイプ 03: 隣接型**
アナトリア中央部	人口　34,496 人
アンカラとイスタンブルを結ぶかつての街道沿いの町。チャルシュの南西には大規模な石造 2 階建の隊商宿スルハン（1683 年建造）があり，2008 年の調査時は修復工事中であった。チャルシュは複数の街路によって格子状の平面形態をとり，木造 2 階建の店舗群が連なる。チャルシュ西に位置する広場では週末に観光客向けの市が開かれ，土産物などが売られる。広場周辺は修復，保存された木造民家が多く，白壁の連なる景観が印象的である。	
都市名: Bergama	**タイプ 03: 隣接型**
エーゲ海地域	人口　58,212 人
ベルガマは紀元前 3 世紀にペルガモン王国の中心地となり，繁栄してきた。町の北側の山にアクロポリスがあり，神殿や図書館，急斜面に建設された劇場等が部分的に残り，修復，公開されている。チャルシュはアラスタと呼ばれ，16-17 世紀建造のベデステンや 1432 年建造のタシュハン，1930 年建造の屋根付き市場の他，低層の小売店舗や工房，複数のモスクやハマムがあり，アラスタ全体の修復プロジェクトが近年進められている。	
都市名: Bolu	**タイプ 03: 隣接型**
黒海地域	人口　107,857 人
アンカラとイスタンブルを結ぶ幹線の中継点。緑豊かな山々が周囲を取り囲み，市役所が面する広場と大通りを中心に町が広がる。チャルシュは広場横の高台に位置し，上の市場と呼ばれている。広場とチャルシュは建物 2 階分ほどの高低差があり，階段で連絡している。階段を上ると 1382 年建造のユルドゥルム・バヤジット・ジャミィと 2 つのハンがある。昨今，大部分を占める木造店舗群をメインにチャルシュ全体の修復計画も進んでいる。	
都市名: Afyonkarahisar	**タイプ 03: 隣接型**
エーゲ海地域	人口 159,967 人
アフヨンカラヒサール県の県都。東西，南北を結ぶ街道が交差し，交易の拠点として機能してきた。都市名のアフヨンはアヘン，カラは黒，ヒサールは要塞という意味であり，チャルシュ背後に切り立った岩山がそびえ，その山頂には城塞が残っている。チャルシュは城塞の東側のベデステン（20 世紀初頭建造）とタシュハン（17 世紀建造）を中心に広がりをみせている。チャルシュの北東部に新市街が広がる。その中心の市役所前広場では式典等が行われる。	
都市名: Kütahya	**タイプ 03: 隣接型**
エーゲ海地域	人口　212,934 人
紀元前から歴史を有する町であり，現在はタイルと陶器の町として知られている。町の西側の高台にビザンツ時代の城塞跡がある。城塞足元の東側にあるチャルシュには，2 つのベデステンが残り，近年修復がなされた。チャルシュには 15 世紀建造のウル・ジャミィがあり，ジャミィから南の新市街へと延びる大通りが現在のメインストリートで，歩行者専有空間として整備されている。この通りのさらに南東部で水曜市が立つ。	

以下，事例を通してタイプ毎の特徴を抽出し，考察する。

1） 分離型: サフランボル

サフランボルは，谷間の旧市街チャルシュと高台の新市街が離れて独立して存在している。チャルシュは全体が世界遺産に指定されて以来，1件1件の建物だけでなく，街路など屋外空間も含めて修復作業が進み，街全体が野外博物館のようである。行政などの都市機能のメインは新市街へ移っており，他都市からのアクセスも新市街が入口となっている。ハマムとジャミィに挟まれた広場が新市街からチャルシュへの入口の役割を果たしている。チャルシュ自体，多様な都市機能を備えて発展してきているため，観光面だけでなく，チャルシュに暮らす住民にとっての宗教や文化，交流施設は現在も活用されている。チャルシュが地理的に新市街と切り離されているため，伝統的な街並みが保存されてきた経緯もあり，他の都市の発展とは異なる特殊な事例である。

2） 拡張型: タラクル，ギョイヌック，ムドゥルヌ，ティレ，カスタモヌ，ウシャク

チャルシュの拡張部分が新市街である場合で，チャルシュ内も新旧の建物が混在しているため，チャルシュと新市街の境界が不明確なタイプである。チャルシュは伝統的な建造物を保存するだけでなく，新たな建造物へと建て替えながら，活気を維持し，周辺の新市街とともにセンターの役割を果たしている。タラクル，ギョイヌック，ムドゥルヌといった規模の小さな街ではチャルシュがほぼセンター領域を担っており，チャルシュ自体が一部改造され，拡張していると考える方が妥当であろう。カスタモヌやウシャクの場合は，都市計画によって街全体が整備され，チャルシュと新市街との境界には広場があり，新旧を繋ぐ緩衝空間として機能している。

3） 隣接型: ナルハン，ベイパザル，ベルガマ，ボル，アフヨンカラヒサール，キュタフヤ

チャルシュに隣接する形で新市街が整備されている場合で，拡張型と似ているが，チャルシュと新市街の境界がわかりやすいタイプである。チャルシュが伝統的な空間形態を維持しているためにエリアが明確である。ベイパザル，ベルガマ，ボルではチャルシュ全体を保存する取り組みがなされ，アフヨンカラヒサールとキュタフヤではチャルシュ内の歴史建造物を中心に保存と活用に向けての修復活動が進んでいる。

4） 融合型: コンヤ，ブルサ，イズミール，イスタンブル

コンヤ，ブルサ，イズミール，イスタンブル4都市とも，人口100万人以上の大都市である。市街地が他の事例に比べて広大であるため，チャルシュ周辺だけでは都市の全体像がみえない。ただ，いずれも交易都市としての長い歴史を有する都市であり，チャルシュは現在も活気あふれる都市空間として機能している。構成としては，チャルシュの拡張部分に新市街があり，さらに別な核となる都市施設を中心とするエリアが複数存在し，チャルシュ周辺が核となるものの，他の複数のエリアが融合してセンター領域を形成している。

5） 分散型: バルケシル

バルケシルの町は，鉄道駅前にバスターミナルがあり，近くに市役所や式典等を開催するアタチュルク・スタジアムと公園が位置し，機能的に多くの人が利用するエリアとなっている。駅前から延びる幹線をしばらく進んだ先にチャルシュがある。チャルシュ内には歴史建造物も維持されているが，ほとんどが数階建のビルで埋め尽くされている。また，大きな吹き抜けをもつ現代的なショッピングセンターや大ホールの市場施設も建っている。チャルシュの領域は不明確であり，チャルシュ以外の都市施設が核となるエリアが同等に複数存在している。チャルシュが中心的な役割を担っておらず，他のエリアと同じように1つの核として機能し，センター領域の一部となっている。境界が定かでない。

4. 考　　察

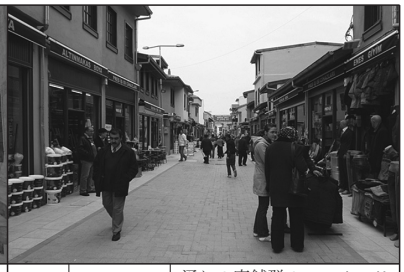
センター領域を把握するにあたり18事例の都市構成から特徴をみてきたが，分散型を除く4タイプ17事例においてチャルシュが核的な役割を果たしており，チャルシュの重要性を再確認することができた。伝統的な商業空間であるチャルシュが都市のセンターとしての役割を現在まで維持してきたのは，

伝統を守るだけでなく新しい要素を取り入れ，開発されてきた点が第一の特徴として挙げられる。（表5. チャルシュにおける空間形態の特徴写真一覧参照。以下，該当箇所に写真 No. を記載する。）

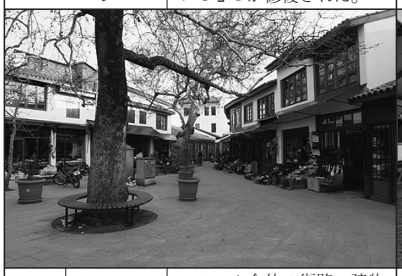
表 5. チャルシュにおける空間形態の特徴写真一覧

45	歴史建造物	写真のベデステンと通りを挟んでもう一つのベデステンの 2 つが修復された。
Kütahya		

46	施設周辺	歴史建造物のウル・ジャミィだけでなく，周辺の環境整備工事。
Bursa		



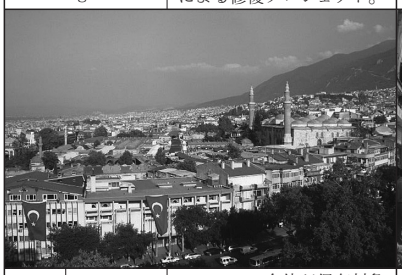
47	街路空間	通りの店舗群のファサードと敷石が整備された。
Bursa		



48	エリア全体	アラスタ全体の街路，建物のファサードの統一（白壁）による修復プロジェクト。
Bergama		

49	新旧混在	チャルシュ内に女性の手工芸市場用に軽やかなデザインの屋根が設置された。
Bergama		

50	新旧混在	修復されたハンの中庭にカフェがあり，現代的デザインのテントで覆われている。
İzmir		



51	エリア全体	チャルシュ全体が保存対象。歴史建造物から街路に至るまで整備されている。
Bursa		

52	街路空間	街路に透明な屋根がかかり，面する建造物のファサードを見せている。
Bursa		

53	街路空間	チャルシュの複数の街路に木材とガラスによる現代的デザインの屋根がかかる。
Bursa		

54	再活用	かつてのハマムを店舗として利用。大ドームの下に商品が並ぶ。
Tire		

55	再活用	かつての神学校を手工芸品の市場として再生。
Kastamonu		

56	再活用	ハマムを修復し，文化施設として再生。
Bursa		

57	再活用	ホテルに改修されたハン。空間形態は維持しながら最新の設備を入れて活用。
Uşak		

58	再活用	建造物の修復をし，中庭はカフェとギャラリーとして活用。
Kastamonu		

59	保存計画	チャルシュ全体を保存するために専門家が図面と現状をチェックしている。
Mudurnu		

ベデステン（写真 45）やハンなどの歴史建造物の修復だけでなく，街路の路面や連続するファサード，庇の統一など，建造物単体ではなく施設周辺や街路，チャルシュ全体といったような空間全体の改修，活用（写真 46〜48）がなされている。改修にあたって，すべて伝統的な形式を再現するのではなく，現代のニーズに合わせ，機能面を重視した現代デザインの採用（写真 49, 50）も部分的に取り入れることで新旧のデザインが混在する空間形態となっている。例えば，ブルサのチャルシュ全体（写真 51）は歴史地区として保存，修復されているが，単に建造物の修復だけでなく，その修復したファサードを見せつつ，チャルシュ利用者にとって快適な街路空間を提供するために現代的なデザインの透明な屋根を街路全体にとりつける取り組みも近年試みられている（写真 52, 53）。歴史建造物の再利用として機能を転用しての活用もみられる。例えば，ハマム（写真 54）や神学校（写真 55）を店舗として活用する事例や文化施設として活用する例（写真 56）である。かつての隊商宿であるハンを現代のホテルとして再生させたもの（写真 57）や複合商業施設として再生させ，中庭をギャラリーとして使用しているもの（写真 58）もある。都市規模により，都市の発展経緯も異なるが，新旧の要素の融合が全体を通しての特徴であり，チャルシュやセンター領域の境界線が曖昧である理由でもある。また，変化するだけでなく，伝統的なチャルシュ全体を保存していく取り組み（写真 59）も複数の都市でなされている。

第二の特徴として，広場という広がりをもった空間の整備によって，チャルシュと新市街を違和感なく繋ぐ緩衝空間の活用が挙げられる。（表 2. 写真 33〜44 参照）広場は交通の拠点ともなり多くの利用が必然的に発生しているが，緑や噴水，ベンチ，カフェなど日常において滞在を促す要素や式典，イベントなど人を集める場としても活用され，多機能な空間となっている。広場の多様な活用は都市整備によって，歩行者空間の確保がなされている点も大きい。広場だけでなく，チャルシュ内の街路の多くも歩行者優先の空間づくりがなされ，チャルシュと広場，広場を経由して新市街へと連続したセンター領域が形成されている。

5. まとめ

18 都市，地域によっては気候の差があるものの，国全体は地中海地域に位置するため，イタリアやスペインのように広場や街路といった屋外空間の活用がみられる。センター領域においても屋外空間が重要な要素であり，空間の活用にあたって歩行者空間の整備も確認してきた。また，空間形態としては，歴史建造物を活かした伝統的な空間維持と機能に合わせた現代的なデザインの導入といった新旧の要素が混在する特徴も共通項として挙げることができた。

今後もチャルシュを研究対象の核とし，その形態と機能について調査，研究を継続する。また，対象地域を拡大し，地域ごとの特性を抽出していくほか，地形的特徴や都市のシンボルにも着目し，トルコにおける都市の特性の分析をさらに進めていく。

註

1 トルコ語 çarşı。通り状の商店街だけでなく，屋根のかかったホール状の空間や中庭を有する商業施設など複合的かつ広域にわたるエリアを示す場合も多いため，日本語に適切な単語が見当たらず，本論ではトルコ語をカタカナ表記にして使用する。以下，関連用語を同様にカタカナ表記とする。

2 トルコ語 pazar。露天市を示すことがほとんどであるが，露店の並ぶものだけでなく常設の市場施設を指す場合もある。

3 トルコ語 cami。モスク。

4 トルコ語 hamam。公衆浴場。

5 トルコ語 külliye。モスクを中心とした複合都市施設。

6 トルコ都市・市場空間調査（第 1 回: 2007 年 8 月〜第 6 回: 2010 年 3 月）を実施し，調査データに基づき，分析を行う。この研究は，平成 19〜21 年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「トルコにおける都市構造と市場空間の活用に関する研究」（研究代表者: 鶴田佳子）の助成を受けて行ったものである。チャルシュの空間構成及び特性に関しては参考文献 006.に，パザルの空間形態と特質に関しては参考文献 007. に詳細を示す。

7 トルコ都市・市場空間調査のうち第 1 回（2007 年 8

月）と第 2 回（2008 年 3 月）の調査地であるギョイヌック，タラクル，ムドゥルヌ，ボル，サフランボル，カスタモヌ，ナルハン，ベイパザルの 8 都市を対象とした。

8　詳細は参考文献 005.に示す。

9　トルコ歩行者空間調査（2006 年 8 月），トルコ都市・市場空間調査（第 1 回: 2007 年 8 月～第 6 回: 2010 年 3 月），第 1 回トルコ都市空間調査（2010 年 8 月）において対象としてきた都市。

10　トルコ語 bedesten。高価な商品を扱う堅固な市場施設。

11　トルコ語 arasta。通路型の市場施設。屋根付きのものと屋根がなく通りの両側に店舗が並ぶものを指す事例もある。

12　トルコ語 han。隊商宿，商館。

13　トルコ語 çayhane。トルコ紅茶の喫茶店。紅茶を飲んで語らう他，ゲームを楽しむ場として，地域の交流拠点ともなっている。チャルシュ内ではインターフォンを周辺の店に繋いで注文を受け，配達中心で営業する店もある。

14　トルコ語 iftar。断食明けの時刻，断食明けの夕食。断食月はイスラーム暦の 9 番目の月であり，2010 年の調査時は 8 月 11 日～9 月 9 日が断食期間であった。

参考文献

001. Türk Kenti, Kemal Ahmet ARÛ, Yapı-Endüstri Merkezi Yayınları, 1998

002. Typical Commercial Buildings of the Ottoman Classical Period and the Ottoman Construction System, Mustafa Cezar, Türkiye iş Bankasi Cultural Publications, 1983

003. Türk Çarşıları, Gündüz Özdeş, Tepe Yayınları, 1998

004.「トルコにおける歩行者空間の構成要素について」，鶴田佳子・高木亜紀子，昭和女子大学学苑，第 801 号，pp. 63-87，2007

005.「トルコにおける市場空間の特性に関する基礎的考察」，鶴田佳子・高木亜紀子，昭和女子大学学苑，第 814 号，pp. 53-74，2008

006.「トルコにおける市場空間の構成と活用に関する考察」，鶴田佳子・高木亜紀子，昭和女子大学学苑，第 820 号，pp. 30-50，2009

007.「トルコにおける市場空間の構成と活用に関する研究　その 2」，鶴田佳子・高木亜紀子，昭和女子大学学苑，第 832 号，pp. 46-65，2010

008. YerelNET（トルコ各地方についての情報サイト）http://www.yerelnet.org.tr/，2010/11/20

謝辞

本研究は，平成 22～24 年度科学研究費補助金，基盤研究（C）「トルコ諸都市におけるセンター領域の空間形態と特性に関する研究」（研究代表者: 鶴田佳子）の助成を受けて，研究の一環として行われたものである。また，トルコ各地での調査において，行政機関及び現地の方々に多大なるご協力を頂きました。ここに記して謝意を表します。

（つるた　よしこ　　現代教養学科）